

女性教職員活躍事例集Ⅱ

～管理職への道のりと伝えたいメッセージ～



猿払村立鬼志別小学校 塩原教頭（前 稚内市立宗谷小学校教頭）

Q お伝えしたいメッセージをお願いします！

宗谷管内には、管理職として将来を期待できる女性教員が多くいます。私も子育てをしながら教員を続け管理職を目指したので、その経験を踏まえて言いますと、確かに女性には家庭というハードルがありますが、周囲の人たちの理解や協力を得ながら、最善のタイミングで挑戦し、自身の能力や経験を、是非、管理職という立場で開花させて欲しいと思います。

Q 管理職を志した理由やきっかけは？

分掌部長やミドルリーダーとして全校で一一致した取組を推進した時に、子どもたちの変容や成長していく姿を見て、学校運営に参画する喜びを感じたこと、先生方の力を最大限引き出して、バックアップする立場へ自分を変えていこうと考えたことが、管理職を志した理由です。

3人の子どもの末の子が高校を卒業した時には、私は既に50歳を過ぎていましたが、子育てが一段落したそのタイミングで、管理職を目指す一大決心をしました。

Q 管理職になるために必要だった支援は？

勤務校の校長先生、教頭先生のようなアドバイスは大変有り難かったです。

また、宗谷管内女性管理職会の研修会では、ロールモデルとなる女性管理職の先生方から、直接いろいろな話を伺ったり、悩みを聞いていただいたり、アドバイスをいただいたりしました。やはり女性ならではの視点がありますので、ここでの学びも大きかったと思います。

Q 管理職になって気づいたことは？

教頭職の仕事には、今までの経験が活かせる部分もあれば、まったく新しいこともたくさんあり、戸惑うことがいろいろありましたが、校長先生に相談に乗っていただいたり、教頭同士のネットワークで交流し合ったりしながら対応していました。

Q 管理職のやりがいや魅力は？

校長の経営方針を具現化するために、学校全体の取組の中心となって進めることで、子どもたちが成長したり、先生方が生き生きと働いたり、保護者や地域から信頼を寄せられたりすることに、やりがいや喜びをととも感じています。

また、教頭職は、教職員の成長と子どもたちの成長の両方を実感できる「2倍の楽しみ」があるところが魅力だと思います。

Q 管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

子育て中は、物理的（時間的）にもメンタル的にも大変な状況になると思いますが、子どもへの愛情・理解、保護者への共感、そして互いの信頼などが深まり、教師としての力が伸びると思います。管理職としては、仕事の面での配慮はもちろん、自分の子育ての失敗経験も含めて伝えながら、先生方を励まし、心の負担を軽減させられるよう気を付けています。

Q ご自身が子育てをしている時に支えとなった管理職のサポートは？

子育てをしている時に、当時の管理職から「子育てで大変な時はあるけれども、周囲の人に助けってもらって乗り切った後は、子育てをしている若い先生を手助けすればいいんだからね。」とっていただきました。大変さに寄り添ったり共感していただいたりしたことが、心の支えになりました。

次ページからインタビューの全文を掲載しております！
是非御覧ください！

1・管理職を志した理由やきっかけを、お聞かせください。

分掌部長やミドルリーダーとして全校で一致した取組を推進した時に、子どもたちの変容や成長していく姿を見て、学校運営に参画する喜びを感じたことと、学級担任として最前線で頑張る先生方の力を最大限引き出して、バックアップする立場へ自分を変えていこうと考えたことが、管理職を志した理由です。

今から十数年前になりますが、当時の女性校長から「先生のこんなところが素晴らしい！だから先生、絶対、管理職になってね！」と何度か声を掛けていただきました。その校長先生は本当に尊敬できる方で、凜としたお姿は、私にとって管理職のロールモデルのような存在でしたが、当時、私は3人の子育て真っ最中。末の子がまだ保育所に通っていて、家庭と子育ての割合がとて大きかったのも、まったくそのようなことは考えられない状況でした。

その校長先生とは退職された後も何度かお会いすることがあって、その度に「是非、管理職へ」とお誘いいただきました。「先生のことは大好きですが、それだけはお応えできないと思います。」と、私は言い続けていました。ただ、声を掛けていただいたことのありがたさは、心の奥に残っていましたね。

それから時は流れ、末の子が高校を卒業した時には、私は既に50歳を過ぎていましたが、そんな折りに、勤務校の女性の教頭先生から「先生、一緒にどう？」と受検のお誘いをいただきました。管理職選考の受検上限年齢が迫ってくる状況でしたので、子育てが一段落したそのタイミングで、管理職を目指す一大決心をしました。

2・管理職になるために必要だった支援は、どのようなことですか？

管理職選考の受検を急遽決めたので、勤務校の校長先生、教頭先生のような様々なアドバイスや、宗谷管内女性管理職会で聞かせていただいたお話が、大変有り難かったです。また、1年先に管理職になった元同僚の先生にも資料を送っていただくなど、支援していただきました。

管内女性管理職会の研修会では、ロールモデルとなる女性管理職の先生方から、直接いろいろな話を伺ったり、悩みを聞いていただいたり、アドバイスをいただいたりしました。やはり、女性ならではの視点がありますので、ここでの学びも大きかったと思います。

管内女性管理職会の存在は以前から知っていましたが、「先生、どう？」と勤務校の女性の教頭先生に声を掛けていただいたことが、研修会参加のきっかけです。私は宗谷管内に長く勤務していましたので、今までお世話になった方も多く、再びお会いし、お話を聞けることがとても楽しみでした。

グループで話をしたり、お茶菓子を囲んで話したりする対面での交流は、やはりとてもよい機会だと思います。新型コロナウイルスによる行動制限が緩和され可能となれば、またそのような交流の機会をもてたらいいなと思っています。

家庭内では、子育て真っ最中の時ももちろんそうでしたが、同じ教員として共働きの夫と3人の子どもたちからの応援・手助け・手伝いは、とても大きな支えとなりました。

3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか？

教頭職には、一般教員の時ではわからない様々な細かい仕事がありました。

今までの経験が活かせる部分もあれば、まったく新しいこともたくさんあり、教頭1年目は戸惑うことがいろいろありましたが、困った時は、校長先生に相談に乗っていただいたり、教頭同士のネットワークで「これ、どうやっているの？」と交流し合ったりしながら対応していました。

一般教員の時は、同じ学校の横の繋がりで教えてもらうことができますが、教頭は学校に一人なので、やはり教頭同士のネットワークは心強いですね。

教頭2年目になると、1年間の見通しがもてるようになりますので、自分から動けることも増えてきたかなと思います。

授業づくりや学級づくりについては、今までの経験から先生方に助言ができることもあり、子どもたちの成長のお手伝いが少しはできたと思います。

4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。

教頭職として校長の経営方針を具現化するために、学校全体の取組の中心となって進めることで、子どもたちが成長したり、先生方が生き生きと働いたり、保護者や地域から信頼を寄せられたりすることに、やりがいや喜びをとて感じています。

学級担任は、子どもの成長を実感できることがとても嬉しく、それがやりがいや魅力だと思いますが、教頭職は、教職員の成長と子どもたちの成長の両方を実感できる「2倍の楽しみ」があるところが魅力だと思います。

よく「教頭は職員室の担任」と言われますけれども、それぞれ個性がある教職員を理解しながら、それぞれの状況に応じた適切な声掛け、指導・支援をすることで、教職員の成長している姿や生き生きと働く姿を見ることができ、それが一つの喜びですし、先生方が生き生きと働いていることで、子どもたちも健やかに育つ部分が大いだと思いますので、そういう点で2倍の楽しさがあります。

5・後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください。

宗谷管内には、管理職として将来を期待できる女性教員が多くいます。

私も十数年前、初めて管理職を目指すようお声掛けくださった校長先生のことは、ずっと頭の中にありましたので、私も同じように管理職としての適性や能力を感じる女性の先生には、機会を見つけて声を掛けるようにしています。

皆さん能力が高い方なので、是非、管理職を目指して欲しいと思っています。子育てなど家庭のことがある人は、すぐに管理職には難しいこともあるかと思いますが、それぞれ最善のタイミングで挑戦し、是非、管理職になって欲しいと思います。

やはり、女性ならではの気付きや目の付け所が必ずあると思いますので、そういうことに自信をもちながら挑戦して欲しいですね。

6・子育てを始める職員に対して、管理職として、どのようなことに気をつけていますか？

子育てと仕事を両立させることについての不安は、物理的な部分とメンタル的な部分と、2つあると思います。

物理的には、子育てで時間が制約されることです。以前の自分の働き方や時間の使い方から、現状にあったように変えていかなければなりません。

子育ての時は「今は子育てで大事な時だから、先生の代わりはいるけど、親の代わりはいない」というぐらい割り切って、できるだけ時間を上手にやりくりしながら、家庭のことや仕事を頑張りたいと思います。

私も子どもが小さい頃、周りの先生方が仕事をしている中、保育所へのお迎えのために先に帰ることが多く、後ろ髪を引かれる思いを抱いていました。時々、残って仕事ができる時には「やったー！」と喜んでいくくらいです。

普段は、学校でできない分、子どもを寝かしつけた後や早朝3時頃に起きて仕事をしていました。これは家族にしか分からないことですので、遅くまで学校に残っている人が一生懸命仕事をしている人と思われていた一昔前の時代、ママさん先生は辛い立場でしたね。

そのような時に管理職から「先生、先に帰ってもいいんだよ。」「今は子育てが大事な時期だから。」等の声掛けがあり、少し気持ちが軽くなりました。

プラス面としては、自分が子育てを経験していることで、学級の子どもに対する愛情や気持ちがさらに深くなります。また、子育てには、一筋縄にはいかない、大人の思うようにはいかない難しさがありますので、同じ子育て中の保護者の方々と分かり合えることが増えていきます。

私の場合、独身の時より子育てを経験した時の方が、保護者の方と同じ立場にいて、同じことを話していても、より信頼していただけるようになったと感じています。子育てについて一緒に共感しながら取り組めたことが、とてもよかったと思っています。

子育て中は、物理的にもメンタル的にも大変な状況になると思いますが、子どもへの愛情・理解、保護者への共感、そして互いの信頼などが深まり、教師としての力が伸びると思います。

管理職としては、仕事の面での配慮はもちろん、自分の子育ての失敗経験も含めて伝えながら、先生方を励まし、心の負担を軽減させられるよう気を付けています。

7・ご自身が子育てをしている時に、管理職から、どのようなサポートが支えになりましたか？

子育てをしている時に、その大変さに寄り添ったり共感していただいたりしたことが、心の支えになりました。

当時の管理職から「子育てで大変な時はあるけれども、周囲の人に助けてもらって乗り切った後は、子育てをしている若い先生を手助けすればいいんだからね。」とっていただきましたので、「あっ、そうか。今は、みんなに助けてもらって申し訳ない気持ち大きいけれど、自分が逆の立場になった時に、そうすればいいんだな。申し訳ないけど、よろしくお願いします。」と思いながら、仕事をしていました。

8・インタビューの最後となりますが、お伝えしたいメッセージはありますか？

私も子育てをしながら教員を続け管理職を目指したので、その経験を踏まえて言いますと、確かに女性には家庭というハードルがありますが、周囲の人たちの理解や協力を得ながら、自身の能力や経験を、是非、管理職という立場で開花させて欲しいと思います。

[インタビュー実施月：令和4年3月]

インタビューにご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。